

議会だより

しらたか

2016年1月25日発行
(平成28年)

Vol.129

山形県白鷹町議会
12月定例会

「鮎っ子、元気に出発～」

文化財の伝承

鮎貝小学校、子獅子舞

14頁に関連記事

・ 将来のまちづくりへ提言 2p

・ ここが聞きたい (4議員が熱弁) 4p

・ シリーズ企画 議会の疑問に答える
「議会になになぜ？」 13p

12月 定例会

定例会は12月10日から18日までの9日間で開催され、27年度補正予算、条例の改正、工事請負契約の変更などについて審議し、すべて原案のとおり可決しました。

町長に町政運営に関する政策を提言

議会では、町の課題を各常任委員会で協議し、議員の総意として11月10日に提言書を町長に手渡しました。

1 提言

少子・高齢社会に おける対応

○子育ての経済的支援と、女性が働きやすい社会づくりの推進
○高齢者のための、保健・医療・福祉の充実

○出会いの場の創出など婚活の支援策の拡充
○町立病院の、町民ニーズに合った医療体制の充実

○Ｉターン・Ｕターンなどの積極的な移住推進



元気いっぱいの子と保育園児

2 提言

安心安全な まちづくり

○豪雨災害箇所への早急な復旧と再被災対策

○自主防災組織の強化・設備等の充実

○地域の実情に応じた除排雪の充実

○危険交差点の早急な安全対策



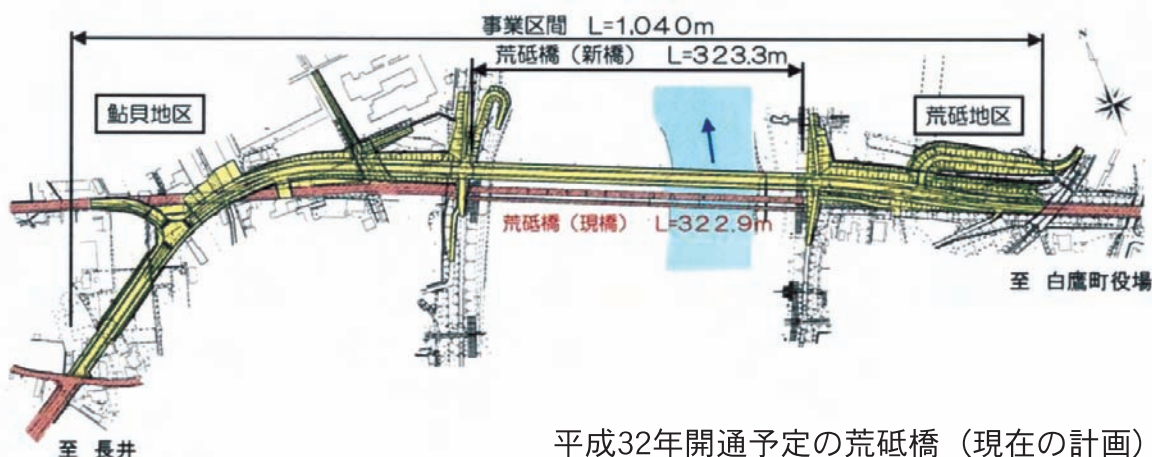
3 提言

主要道路網の整備促進

○荒砥橋の着実な早期完成に向けた要望活動

○置賜生活圈30分構想の長井く白鷹間の西廻り幹線道路の実現

○生活関連道路の補修、改修の対応



平成32年開通予定の荒砥橋（現在の計画）

4 提言

経済の活性化

○若者・女性の就労の場の確保など労働環境の拡充

○農産物などの付加価値を高め、6次産業化の推進

○受注拡大や企業誘致などの拡充

○森林再生をめざした木材流通システムなどの構築

○新規就農者・農業後継者の支援推進



付加価値を高めよう

5 提言

まちづくり複合施設整備の進め方

○広く町民の意見を聞き、慎重・丁寧に進めるよう要望

○西中学校・鷹山小学校跡地利用は地元意向に配慮



町産材利用に向けての試験伐倒

総合戦略の具現化にむけて 町民との共通認識を持つべき

町長 地域の方々と話し合い、方向性を示す



小口尚司 議員

地区ごとに人口ビジョンの数字を示しては

問

地区によって人口減少や産業などが違うことから、地区ごとの人口ビジョンと総合戦略を策定し、具体的に人口動態の数字を示すべきでは。

町長

地区別総合戦略の策定は可能であるが、減少していく人口動態を示すことでやる気を衰退させることはできない。地域の方々と話し合いを示しながら方向性を示していく。

地区担当職員の配置を

問

各地区に職員を配置し、人口ビジョンと総合戦略の共通認識を持ち具現化を進めるべきでは。

町長

現時点では、各地区のコミュニティセンター長や、事務局と連携を密にすることで対応できると考えている。

地域の力を生かす取り組みを

問

総合戦略の具現化は、これらのまちづくりの試金

石。地域の力を生かしながら官民一体となつた取り組みが必要では。

町長

昭和45年から過疎の指定を受け、インフラ整備など生活基盤整備を行ってきた。その中で、学校を含めた公共施設の在り方も重要である。これらを踏まえ、地域が主体となった地域づくりに大いに期待し、支援していきたい。

◎人口の将来展望 (H27.9 住基人口 14,731人)

2020年 (H32)	13,500人程度
2040年 (H52)	10,500人程度
(対策を講じない場合2040年 9,768人)	

人口ビジョンより

6次産業化の推進は

問

総合戦略の観点からも6次産業化の推進が重要かと思うが、現状と課題は。

町長

小規模な生産体制での商品開発や販売戦略となっており、雇用してまでの6次産業化には至っていない現状である。労働力や生産量に限界があるため、新商品の開発や支援制度の情報収集、さらには販路の拡大等には苦勞をされているものにとらえている。

地域おこし協力隊の活用を

問

課題解決策のためにも、6次産業化推進スタッフとして、また古典校やフラー長井線などの本町のあらゆる資源活用の中でも「地域おこし協力隊」を活用しては。

産業振興課長

地域おこし協力隊の方に何を求めるかが一番の課題。中長期的なスパンの中でたずさわれるような方が必要になってくると認識している。



協力隊や移住希望者への説明(東京)

庁舎等複合施設整備について問う

町長 コストを抑える視点で整備していく

複合施設整備の負の影響を問う

問 複合施設整備が町民生活に及ぼす負の影響、町民サービスへの低下はないのか。

町長 他の事業に影響を及ぼし、サービスの低下にならないよう、町政運営を担っていく。

各地区からの要望への対応は

問 各地区からの身近な要望が実現されないものがある中、複合施設整備事業



樋口与一郎 議員

の実施にともない、要望が、より困難になるのではとの危惧があるが。

町長 トータルの考えながら、危険度の高いところから対応していきたい。

材料費高騰の影響は

問 2020年の東京オリンピックの開催にともない、材料費が高騰している状況での複合施設整備が及ぼす影響は大きいと思うが。

企画主幹 今後の資材単価は不透明だが、町内木材に

については乱高下はないと思われる。

過疎債を活用したいと考えているが、その制度は平成32年度までとなっている。

それ以降の制度は不透明であり、現制度で施設整備をしていきたい。

基金対応を問う

問 箱物行政を批判して当選された町長だが、庁舎等を建設するのであれば、町長就任時から、基金を積み立てておけばよかったのでは。

町長 東日本大震災や2年連続の豪雨災害の経験等々を総合的に勘案した。

町民の合意形成は

問 東日本大震災、豪雨災害を錦の御旗にして事業を実施するのではなく、町民の合意形成と十分

な環境・条件が整った上でというのが本当では。

町長 町民の代表、町民会議で意見を聞き、最終的な取りまとめをした上で次のステップに進めていく。

建設費用を問う

問 過疎債適用により3割償還となる図書館・防災センターと、一般事業債となり10割償還となる庁舎。それぞれの建設費用は。

町長 当町は財政力が非常に弱い自治体なので、国県の支援を得られるように努力していく。

多額の借金が生じるのでは

問 26年度の一般会計の起債残高が約86億円だが、整備計画で更に多額の借金が生じるが。

町長 基本設計で、個別の施設についてある程度算出されるものと認識している。

企画主幹



役場敷地の地質を調べています

町の森林・林業再生の取り組みを問う

町長 森林境界明確化は、一定規模のまとまりを持った地域から

森林境界の明確化は

問 境界明確化が進まない理由は何か。

農林主幹 小さい面積の山を非常に多くの方が所有しており、入り組んでいるため準備の手順に時間がかかる。

問 今後、境界明確化をどのように進めていくのか。

町長 一定規模のまとまりを持った意欲のある地域を対象に、境界杭の提供や、GPSの貸し出しなど



佐々木誠司 議員

も検討している。

林道、作業道の整備は

問 道幅が狭くなり、路面も悪化し、トラックの乗り入れが困難または不可能なところが多くある。今後の林道整備の進め方は。

町長 降雨や雪害により崩落する箇所の整備は引き続きの課題と認識している。森林資源の活用状況、林齢や蓄積量、路網からの距離等の状況を見ながら、優先順位を決

めて順次対応していきたい。

庁舎等建設における町産木材の確保は

問 現在計画中的まちづくり複合施設でも町産木材を使用することだが、森林・林業の整備がほとんど進まない中で、木材の確保をどのように進めるのか。

企画主幹 現在、鮎貝自彊会（じきようかい）の山の木を使うことにしている。理由として、森林境界が明確になっており、山の状態も把握され、林齢や蓄積量の情報がある。ほかの地区でも使える木があるという情報もあるが、詳細なデータがない。

公共施設等に町産木材を使用する意義とは

問 町全体の森林の詳細なデータがほとんどないまま、一部地域のみからの木材の確保ということでは、公共施設木材利用における、森林の有する多面的機能の発揮、地域経済の活性化や雇用の創出につながるのか。

町長 境界明確化事業と、その後の森林計画をつくるという一体的な流れの中で、地域の協力により、材として生かし、再造林し、地域の経済循環に結びつくような形をつくるのが今求められている。公共建築物に対する材の確保は、町内まんべんなく、視野を広げていきたい。



ちから合わせて、山をきれいにするべ！

TPP交渉から直ちに撤退を

町長 全国町村長会の特別決議に協調した対応をする

TPPは農業を破壊する、直ちに撤退を

問

TPP関連政策大綱は、国会

にはかろうともせずに発表。立憲国の日本では絶対にしてはならないこと。TPPは農村破壊につながることは明白である。政府に対し直ちに撤退と意見すべきと思うが。

町長

今回の大筋合

意は農林水産業に深刻な打撃を与える懸念や、食料自給率の低下等、活力ある農山漁村の構築の妨げになりかねないことは指摘



石川重二議員

問

日本は、社会保険や国民健康

保険等で国民の健康を保護している。補償制度がない国々と右ならいすべきなのか。

医療・福祉分野への影響は

のとおり。全国町村長会ではTPPに関する特別決議が満場一致で採択され、品質や安全性に対する国民の理解を深めるとともに各種施策を講じ、生産者が希望を持つて経営に取り組めるよう政府に対して要請行動を行ってきた。

町長

TPPにおける医療・福祉分

野の関係は、「包括的留保」いわゆる将来留保になる。現行制度が変わるものではないと認識している。

西中体育館を再活用すべき

町長 耐用年数に迫っており、改修しても大きな期待が望めない

体育館の再活用は安価で可能では

問

体育館の劣化した屋根などは、安価で再オープンに結びつけることは可能なのでは。

町長

再活用には、耐震化工事や屋根改修工事が必要で相当な工事費がかかる。建設から47年が経過し耐用年数の50年に迫っている。改修工事を実施しても、建物全体の老朽度の改善は大きく期待できるものではない。

万が一に備え

問

地域に開放する交流の場を確保しながら、一時避難所としても使用できる体育館が必要。

町長

建物を全て解体撤去し、社会福祉施設用地として活用する方向。整備予定の施設には、災害時の一時避難所や軽スポーツなどに利用できるホール的な機能確保をいただけるよう、町としても白鷹福祉会に要請したい。



旧西中、解体されるの？

正算
補予

このように決めました

質 疑

基金取り崩し、グループホーム整備へ

一般会計補正の主なもの

障がい者福祉施設整備事業費補助金

2270万円

白鷹こぶし会が設置主体となる障がい者グループホームの整備に対し支援を行うもの

保育園運営委託料

6237万円

入所実績及び保育単価の改定等に基づく追加計上をするもの

ナラシ対策加入促進緊急事業

56万円

米価下落時の唯一の補てん制度であるナラシ対策加入を促進し、農業法人等の組織運営費に
対し支援するもの

道路河川豪雨災害復旧事業費

100万円

河川の過年度豪雨災害復旧に係る工事請負費
の追加計上をするもの

個人番号カード関連事業費

26万円

各選挙費

△1109万円

佐野線道路改良事業

500万円

橋梁安全対策事業

400万円

消火栓設置事業費

40万円

小学校管理費

263万円

中学校管理費

150万円

など

◎ 財源は国、県支出金、地方交付税、繰越金などで
対応します。

※万円未満は端数を調整しています。

グループホームの
整備は

委員 当初予算で1000万円を計上してい

たが、補正の要因は何か。

当局 白鷹こぶし会で

国県補助金を申請したが、不採択となった。

国県支出金相当分の

2270万円を町で支

援していくため、町の

福祉振興基金を取り崩

し対応するもの。



グループホームの整備が待たれる（鮎貝地内）

個人番号カードの発
行は

委員 通知カードの送

付に遅れが出ている中
で、白鷹町はいつから
個人番号カードの発行
が可能となるのか。

当局 現在、各家庭に

通知カードを送付して

おり、1月1日施行に

向けて対応している。

現在31件ほど申請があ
る。

平成27年度補正予算総括表

会 計 名	補正額	補正後の額
一 般 会 計	1億745万円	82億1409万円
特別会計	下 水 道	210万円
	農業集落排水	100万円
	介 護 保 険	35万円
		16億1535万円

※万円未満は端数を調整しています。

上下分離方式は長井線を救うか

12月15日に委員会が開催され、フラワー長井線の経営改善計画等の説明を受けた。

山形鉄道㈱の経営改善計画策定にむけて

きびしい現状

◆利用者はピーク時の144万人(平成2年の43%の62万人(平成26年)まで減少。観光客や高校生の利用者も減少傾向。

収入増の対策

◆LINEスタンプの販売や関連商品のネット販売の強化。
◆ふるさと納税の返礼品にグッズを同梱。
◆学校行事に合わせたダイヤ改正やJR線との接続性の向上など。

上下分離方式導入が条件

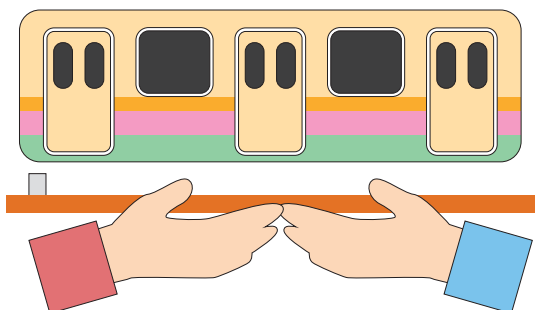
◆国の補助率が拡大する鉄道事業再構築事業を導入。事業者(山形鉄道)は、運行部分(上)を負担。沿線市町と県は、施設(上)の維持・補修に対して補助する仕組みの導入が条件となる。

質疑

経営の今後の見通しは

委員 改善計画だけでは十分とはいえない。今後の見通しは。

当局 沿線市町の温度差はあるが、議論の上、上下分離の方向性を示



した。国・県の支援を増やし経営するしかない。

保育園はどう変わる

平成28年4月から、あらと・よつばの両保育園が、教育と保育、両方の特徴をあわせ持つ、幼保連携型「認定こども園」になるとの説明を受けた。

これは平成27年4月から始まった子ども・子育て支援新制度により、県の基準に基づき、県からの認可を受けて、社会福祉法人白鷹会が行うもの。

質疑

メリットは

委員 こども園に移行するメリットは。

当局 しつかり定義づけられた教育・保育が受けられる。

保育園の選択は

委員 町内どの保育園にも入園できるのか。

当局 希望に応じて利用できるが、場合により第二希望となる。



おじいちゃんといっしょ (あらと保育園)

保育園による格差は

委員 こども園は教育の時間がある。希望の園に入れない場合があるとすれば問題では。

当局 現在も保育園とはいえ造形や英会話などを行っている。町内の園は同じ水準の保育をしている。

その他

- 過疎計画・男女共同参画計画等の策定
 - 地域おこし協力隊
 - 青少年国際交流事業実施状況
 - 介護老人保健施設の整備
 - 「婚活・結婚に関するアンケート」の結果
 - 公立保育所運営検討委員会の中間報告
 - 斎場の改修工事
- について説明があった。

産建文教常任委員会

全国高校総体に向けて

12月16日に委員会が開催され、ソフトボール場と野球場の改修工事を行うため、調査を行った結果について説明を受けた。

ソフトボール場・野球場改修工事調査

平成29年に女子ソフトボール競技が白鷹を会場に行われることから、老朽化した施設の改修を目的に、改修部分と工事費用についての調査を行ったもの。

●財源について

スポーツ振興くじ助成を受けるべく、日本スポーツ振興センターと、助成対象の内容について打ち合わせ中。

●就業センターの修繕

フロア張替えや畳の表替え、トイレ洋式化などを予定している。

質疑

事業費の増減は

委員 財源確保の結果により、事業費の増減はあるのか。

当局 補助の種類が改修内容により「普通」と「大規模」がある。大規模を選択することで改修範囲が広がっても、有利であれば、事業費が増加する場合もある。

野球場
照明タイマー、放送設備、バックネットなど
約3000万円



きれいにしてお迎えしましょう

紅花産地としてのブランド化をはかる

「日本の紅（あか）をつくる町」紅花生産日本一連携推進事業について説明を受けた。

●取り組み方針

本町の紅花生産が国内トップシェアであることから、生産者間で連携し、生産拡大を進めていく。企業や大学などと連携して、紅花産地としてのブランド化をはかり、「紅花摘み」観光体験やPRを実施し、交流人口の増加をはかる。

質疑

推進本部について

委員 連携推進本部を設置したが、誰が進めていくのか。

当局 生産者など12名の本部員と地域おこし協力隊を含む8名の事務局。構成員それぞれの立場で活躍をいただき進める。

展開する主な事業（合計1010万円）

- ①生産技術向上及び組織強化（150万円）
土壌改良・ユニフォーム・商品学習会・他
- ②高付加価値化（50万円）
商品開発・6次産業化・他
- ③観光振興（80万円）
体験農業・ガイド養成・紅花娘衣装制作・他
- ④イメージアップ戦略（504万円）
紅花パネル・案内看板・ロゴシール・他
- ⑤全体フレームの構築（200万円）
本事業の全体フレームを構築する
- ⑥事務費（26万円）



この先の事業展開は

委員 先を見据えた事業展開をどうはかっていくのか。

当局 継続していくことが大切とし、まずは地方創生事業の中で取り組んでいく。

その他

- 町道路線の認定
 - 荒砥橋架替事業
 - 実洲川現況調査報告
 - PPPの大筋合意の影響
 - 食育・地産地消推進計画の中間報告
 - 荒砥小改修工事調査
 - 東陽グランド駐車場整備計画（案）
- について説明があった。

まちづくり複合施設等整備特別委員会

施設整備へ活発な町民会議

12月11日に委員会が開催され、基本設計策定に向けた検討状況の説明を受けた。

町民会議の状況

◆各地区推薦、公募委員、行政関係者29人で町民会議を組織し、現在まで3回の会議を行い検討中。

◆今後、12月中旬に中間とりまとめ、パブリックコメントを実施。平成28年2月中旬に最終とりまとめを行い、議会特別委員会へ。この間3回の町民会議を予定。

町産材調達方法

◆伐採予定地から杉を10本伐採し、乾燥、製材、強度試験を実施。

◆町内業者を主とした木材生産体制を構築中。乾燥施設に関する勉強視察研修を実施。

質疑

町民会議の要望と予算の関係は

委員 町民ラウンジなどの町民会議の要望により、予算額が増加するのでは。

当局 現在は希望をできるだけ入れた状態になっているが、どこを縮小するかなどの話をし、建設費に跳ね返らないようにする。

段差解消と動線の問題は

委員 平面図では段差のイメージができない。高齢化社会における段差解消や動線の問題をどう考えるか。

当局 町民会議でも同様の意見が出ている。今回の会議で横断面(断面)を示し、検討する。

その他

旧西中学校跡地利用について、(社)白鷹福祉会から要望が出されている、社会福祉用地として活用するとの説明があった。



模型を使っでの検討
(町民会議)



議会広報委員研修

伝わらなければ意味がない

10月20日から21日まで全国町村議会広報研修会に参加してきました。

今後の広報誌発行に大変参考になりました。

- ・「長い文章ほど良い文章」「難解な文章を書く人は優秀」というのは勘違い。
- ◎見やすい文章は得する
- ・読んでもらえる
- ・理解しやすくなる
- ・好感をもたれる
- ◎見やすくするポイント
- ・図やイラストを使う
- ・漢字を少なくする
- ・改行・空白行を使う
- ◎ゴールを示す
- ・何ができあがるのか
- ・どのようなことができるようになるのか
- ・どのような知識を得ることができるのか



熱気とやる気にあふれて

通年議会と議会活性化を学ぶ

9月28日から29日まで岩手県矢巾町と葛巻町へ視察研修を行いました。
先進的な取り組みに挑戦する姿勢に感銘を受けた研修でした。

岩手県矢巾町 ◎議会活性化の 特徴

☆一般質問は通告制であるが、答弁書が前日配布される。
(当町議会は配布なし)
☆一般質問の議員の発言時間が30分。
(当町議会は質問と答弁の合計で1時間)
☆通年議会にしたことで議案に対して審議のスピード感がある。
(当町議会は年4回)

岩手県葛巻町 ◎自主放送での 情報公開

町で自主放送されている「くずまきテレビ」は驚きました。
議会中継はもちろん、常任委員会等の会議も放送していました。さらに災害情報や町のお知らせなど身近な情報が家庭のテレビをつけると簡単に見ることができ、議会と町民の距離が縮まり、それにより議会報告会には大勢の町民が参加することでした。



家庭のテレビでつながる議会

議員管外研修報告

山間地での元気な地域づくりを学ぶ

10月14日から16日まで視察研修を行いました。

町民と町行政が一体となって活気ある町づくりを推進し、町民の福祉の向上に努めていく必要があると改めて感じた研修でした。



活気あふれる地域とは

長野県下條村 子育て支援を最 優先

若者定住対策と子育て支援を最優先し、積極的な行政改革により人口増加を実現していました。

岐阜県郡上市 明宝地区

特産物加工で活 性化

通年型観光と若者定住に向け、第3セクターによる特産物加工会社を設立・運営し、地域を活性化。一方で地域と行政が一体となり地域振興事業に精力的に取り組んでいました。

議会になになぜ？



議会に対する素朴な疑問をQ & A方式で
分かりやすく解説します。

議会での委員会ってなに？

Q 議会の委員会って何するところ

A 議会を取り扱う事項は、数も多く幅広い分野にわたり内容も複雑なため、議員が全員集まって話し合うと、多くの時間がかかります。このため、グループに分かれて詳しく調べたり、話し合いをするところです。

Q どんな委員会があるの

A 委員会には、「常任委員会」「議会運営委員会」「特別委員会」の3種類があり、条例で設置することができます。

「常任委員会」

議会に常に置かれている委員会で、分野を分けて議案などをそれぞれ担当の委員会で専門的に審査します。

「議会運営委員会」

常設の委員会で、議会運営をスムーズに進めるため議案などの提出状況を把握し、順番・日程などを決めたり、会議規則など議会全般にわたる事項について審議したりするところです。

「特別委員会」

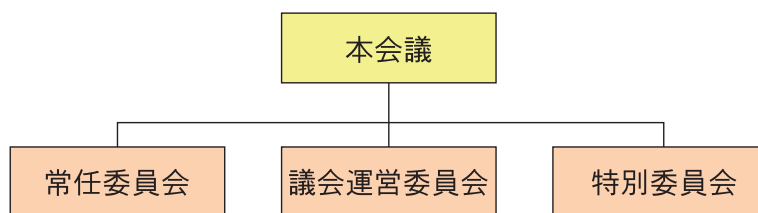
常任委員会とは別に重要な課題など特定の事柄について専門的に審査や調査をするために必要に応じて設置される委員会です。

Q 白鷹町ではどうなっているの

A 白鷹町では現在、2つの常任委員会と議会運営委員会、4つの特別委員会（議会広報・予算・まちづくり複合施設等整備・議会活性化）があります。

Q 常任委員会は具体的にどんなことをしているの

A 定例議会開催ごとに委員会を開催し、請願の審査や、担当している各課から事業の状況や、議会に上程予定の条例や各種計画、補正予算などについて事前に説明を受け、質疑をしながら審査・調査をしています。



これを参考に、委員
会レポートを
ご覧ください。

常任委員会名	委員数	担当する課・内容
総務厚生常任委員会	7人	総務・町民・税務・健康福祉各課などに関する事項
産建文教常任委員会	7人	産業振興・建設水道・教育委員会に関する事項

請 願

●T P P 交渉「大筋合意」は撤回し、調印・
批准しないことを求める請願

請願者 白鷹町農民連 会長 川部 忠弥
賛成少数のため 不採択

●戦争法(平和安全保障関連法)の廃止を求める
意見書提出の請願

請願者
西置賜革新懇話会 代表世話人 今泉 義憲
賛成少数のため 不採択

●山口沖地内の町道の認定と道路整備

請願者 山口区長 大瀧 憲夫
蚕桑16町内長 植木 健司
全員賛成 採択



待たれる道路整備（山口沖地内）

契 約

（仮称）町民武道館建築工事請負契約の変更

提案理由

工事を実施した結果、設計の一部を変更し
て実施するため

変更前契約金額 3億2940万円

変更後契約金額 3億3079万6440円

全会一致で可決されました。



背すじを伸ばして、凛々しく（白鷹中）

条 例

●白鷹町行政手続きにおける法律に基づく個人
番号の利用に関する条例の設定

●白鷹町町税条例等の一部を改正する条例の
設定

●白鷹町国民健康保険税条例の一部を改正す
る条例の制定

●白鷹町介護保険条例の一部を改正する条例
の制定

●白鷹町議会の議員その他非常勤の職員の公
務災害補償等に関する条例の一部を改正する
条例の制定

すべて全会一致で可決されました。

表 紙

― 地域の誇り ―

鮎貝小学校

「子獅子舞」

鮎貝八幡宮の七五

三獅子舞は、町の無
形文化財です。

鮎貝小学校が子獅子舞に取り組んで今年で47年目になりました。地域の方々の協力と指導により、主に土曜日を活用し、獅子舞や笛太鼓の練習を行ってきました。10月11日の祭礼には朝から、元気な子獅子が家族に見送られながら、地域の厄を祓いに境内を出発しました。





— あの質問のゆくえ —

耕作放棄地への対応は

地域活性化センター事業の予算が激減しているが、耕作放棄地の解消への対応はどうなっているのか。

平成25年3月議会

当局答弁

山形県の耕作放棄地対策協議会で基金を造成し、各市町村に助成をする耕作放棄地再生利用緊急対策事業があり、活性化センターが事業主体となりこの事業に取り組む。

どうなった

耕作放棄地の解消については、白鷹町地域農業活性化センターが窓口となり、国の耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用しながら取り組んでいます

町では、年間3ヘクタールの耕作放棄地解消を目標に掲げており、直近3年間の取り組み件数及び解消面積は、平成25年度は3件で1.43 ヘクタール 、平成26年度は1件で3.68 ヘクタール 、平成27年度は1件で1.05 ヘクタール となっています。解消された耕作放棄地の多くは元々桑園だった農地で、解消後は野菜などが作付けされています。

また、平成25年度から活性化センター単独の上乗せ補助も実施しており、いずれの取り組みも補助金を有効に活用いただいています。

今後も町広報紙等を活用し事業の周知徹底を図るとともに、関係機関と連携しながら、耕作放棄地の解消へ向けた取り組みを強化していきたいと考えています。



未来に残したい美しい棚田風景

事業の検証と評価

農家の高齢化や土地相続人の農業離れ等に伴い、耕作放棄地は年々増えている。放棄地周辺の方々からは、雑草や害虫の増加に対する懸念も多く、早期の対策を願う声が聞かれることから、解消への取り組みをさらに加速させる必要があると考える。

補助金を上乗せし、取り組みやすくしていることは評価できるが、事業の活用増加と目標面積達成に向けて更なるPR活動の強化に期待する。



ママ
大好き!



佐藤まゆみ さん
(鮎貝地区)

インタビュー よむぎざったなっすー

子育ては親がやるのが 基本です。(きっぱり!)

とにかく明るく、元気で笑顔がすばらしい佐藤さん。5人のお子さんを持つスーパーママさんです!

友だちがたくさん

生まれは東京ですが、親の仕事の関係で九州各地を転々。

幼稚園2回、小学校3回、中学校2回の転校をしました。鹿児島が一番長かったです。

鹿児島といえば

そう、桜島! 住んでいた鹿児島市内に

も風向きによって灰が降ります。トゲトゲしていてチクチクします。

白鷹の印象

雪の壁にびっくりです。想像以上でした。

それと、言葉!

ボソボソ、モゴモゴ:こちらに来て9年目

ですが、いまだに聞き返すことがあります。

鹿児島の人はハキハキ

私はふつうに話しているつもりなのですが、剛速球に感じられるようです。

九州男児と比べたら

白鷹の男性は地域の集まりに率先して参加して、しかもママに動く姿に驚かされました。また、穏やかで優しいです。その分、女性には強いイメージがあります。

食べ物

料理のバリエーションが豊富です。干しだし、漬けたりとにかくすべておいしいです!自信をもってアピールしてもらいたいです。

戸惑ったこと

「隣組」にびっくり。協力金や寄付金など、いろいろな出費がありますね。今までは当たり前のことでも、当たり前でないと感じる人も増えていきます。使いみちなどを公開していくのも大事なのではないのでしょうか。

子育て・教育

子育ては親がやるのが基本で、なんでも行政や援助に頼ってしまつのはダメでしょう。それにしても病院に産婦人科や小児科がないのは困ります。

町への期待

子どもたちがゆつくりと読書ができる図書館がほしいです。

また、地域のまちづくり懇談会的な会合などは、なかなか空の囲気でこそ本音が出ると思いますので、堅苦しくなく、子どもも一緒に参加できるものがいいと思います。

議会へ望みたい

議会と子育て世代の距離は遠く感じます。町のイベントなどで議員さんと触れ合う機会があるといいと思います。

広報誌については「むずかしい文章」はまず読まないの、できるだけわかりやすい表現にしたいと思います。

編集後記



今後の婚活イベントに「参加しなくともよい」と思っている人が7割近いことに衝撃を受けました。婚活に関する初めてのアンケートの結果です。人口減の影響は町民の暮らしにダイブローのようにじわじわ効いてきます。婚活対策は町の優先課題の一つなのは誰の目にも明らかなのに、何となく他人まかせな感じがします。先日、スポーツ婚活でカップルが多く誕生したという記事が山形新聞に掲載されました。他の地域の成功例に学びながら町をあげた真剣な取り組みが求められます。(笹原)

広報委員

委員長	山田 仁
副委員長・編集長	小口 尚司
委員	石川 重二
委員	佐々木 誠司
委員	笹原 俊一
印刷	(有)梅津印刷

お手持ちのパソコンで議会中継をご覧ください。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。